修学旅行新聞

発行所 財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人 前田 寛
〒101 東京都千代田区
神田錦町1-17-1（NK第一ビル）☎03（5259）0631
振替 00160－7－36337

われらの信条

★ われわれは教育を熱愛し 友愛と信義を基盤とする同志的組織のもとに団結する

★ われわれは全修協創設の精神にのっとり 公益法人として 児童生徒の幸福のために挺身する

★ われわれは修学旅行の改善向上に邁進し 我が国の教育振興に寄与する

文部省の概算要求どおりに

平成7年度修学旅行費等の国庫補助単価増額を

10月12日 大蔵省へ陳情

(財)全修協・三地区修旅連

財団法人全国修学旅行研究協会（山本種一理事長）と、関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会（三地区修旅連、横嶋孝夫会長・宇都宮市立陽南中学校長）は、文部省提出の平成七年度修学旅行費等の国庫補助単価に関する概算要求が、原案どおり査定されるよう、十月十二日大蔵省に対し陳情を行った。

(財)全修協と三地区修旅連は、八月に文部省へ来年度の修学旅行費・校外活動費等の国庫補助単価（要保護・準要保護家庭並びにへき地校の児童生徒に支給）の増額について陳情しており、今回は文部省からの概算要求（総額五兆七千五百億円、今年度当初予算より3・8%増）が大蔵省に提出されたのを機に、当該予算の査定について、大蔵省の配慮を得るための陳情である。

全修協から前田寛理事・総局長、中島和友本部事務局次長、井桁孝修学旅行部長、三地区修旅連から横嶋孝夫会長の四名が、大蔵省主計局文部第二係を介して羽深成樹主計官補佐に面会し、修学旅行費等の国庫補助単価の増額について、概算要求どおりに査定されるよう陳情した。

これに対し、大蔵省側から「陳情の主旨に添うよう検討したい」との回答があり、増額を期待したい。

大蔵省主計局へ陳情

平成7年度の概算要求額

（1人当たり、円）

行事種別	学校種別	要求額
修学旅行	小学校	19,400
	中学校	53,100
宿泊を伴わない校外活動	小学校	1,400
	中学校	2,010
宿泊を伴う校外活動	小学校	3,320
	中学校	5,530

志摩半島でスペインを体感

（大阪市立北巽小学校 2面に作文）

――主張――

修学旅行で学ぶ

広報委員 井桁 孝

「修学旅行で学ぶ」とは、言い替えると、「修学旅行それで学ぶ」ということになる。学ぶという意味には教えを受けるという意味もあるが、ここでは、生徒一人一人が修学旅行を我がこととしてとらえ、主体的にその計画に参画する積極的な活動を学ぶと考える。

修学旅行は、生徒が望む最大の関心事である。この期待と関心にどうこたえていくかが問われる。中学校生活をしめくくる一つの節目としての学校行事にまで、その質を高めることが要請される。生徒一人一人のアイデンティティの確立に役立つ旅の原体験を与えるものでありたい。

次に、修学旅行で学ぶということを具体的に述べる。時間的な流れでは、事前活動、旅行中の活動、事後の活動になる。

事前活動では、一人一人が喜びと感動のある旅づくりに積極的に参画することが大切である。大人でも旅に出る前のプランニングは心が躍る。子供においておや。未知なるものへの挑戦とあこがれが心をかきたてる。この心理を上手にくすぐることが必要である。

現在の中学生は、本音と建前を使いわける術を心得ている。本音をどれだけとりあげられるか、建前とどう調和させるか、役者を引き立たせる黒子としての教師の力量が問われる。主体性を尊重することによって、生徒は自己の言動には責任を負わなければならないことを自然に学びとる。もはや単なる、お仕着せの修学旅行や学習（研修）のみの修学旅行の時代は終焉（えん）した。

次に、旅行中の活動でどんなことを学ぶのか。ともすると生徒だけが学ぶ修学旅行になりがちである。「師弟同行」、教師と生徒が共に学ぶ多くの機会がある。平素と異なる生活環境での同宿、同飯は、人間のきずなともいえるお互いの信頼、友情、感謝の念を開花させる。

寝食を共にした集団生活からは、集団の一員としての個の役割の大切さを身をもって学ぶ。行動・選択の自由、意志・道徳の自由も集団生活の中では制限されざるを得ないということが自然に身につく。

事後の活動では、修学旅行を個として、集団として振り返ってみる。そのとき様々な感慨が生まれる。つまずき、失敗、失意、涙、それを克服したとき、仲間としての連帯感が生徒一人一人の心の中にしみわたる。そこに新しい自己の発見と自校文化や地域文化の創造につながる力が醸成される。

修学旅行で学ぶ、この主体的な学びの心を一過性のものにしてはならない。人間は生涯を自ら学び続け、旅をし続ける。修学旅行を旅の原体験として位置付けることができるならば、その地位をもっと高めなければならない。

修学旅行で学び、身に付けた力は、まさに生きて働く新学力というにふさわしい。この力がやがて人間、自然、文化を温かく見つめ、世界を鋭く洞察し、「自然及び人類の文化史の上になにを残すのか」と自らの問として生まれることを強く期待する。

日本人がこのような力を持つように私たちが努力をしていくとき、学校教育としての修学旅行は確固たる地位を占め、将来も継続されていく。

（第九回全修協修学旅行セミナーの基調提案から）

テーマは「主体的に活動し自ら学ぶ修学旅行」

第11回全国修学旅行研究大会

10月28日 宇都宮で

財団法人全国修学旅行研究協会と、関東地区公立中学校修学旅行委員会が主催する第十一回全国修学旅行研究大会は、文部省、都道府県教育長協議会、関東各県教育委員会ほかの後援により、十月二十八日栃木県宇都宮市のプラザイン・くろかみで開催された。

「主体的に活動し自ら学ぶ修学旅行」をテーマに、全国から三百十名が参加、関修委渡邊敏夫事務局長（宇都宮市立豊郷中学校長）の司会で、大木勝利委員（益子町立七井中学校長）が開会を宣し、主催者の全修協山本種一理事長の代理前田寛理事・総局長と関修委横嶋孝夫会長（宇都宮市立陽南中学校長）があいさつ、栃木県・宇都宮市両教育委員会教育長の来賓祝辞の後、次の研究発表を行った。

①栃木県市貝町立市貝中学校 田上富男教諭「三年間を見通し自ら学びとる力の育成を目指す修学旅行」

②宇都宮市立豊郷中学校 古田真隆教諭「研究テーマの設定を中心に生徒自らが計画した修学旅行の実践」

続いて松本忠委員（宇都宮市立横川中学校長）による研究協議、栃木県教育委員会義務教育課水越久夫指導主事の指導講評があり、文部省初等中等教育局中学校課大槻達也課長補佐兼環境教育専門官の「修学旅行における生徒の自主性」と題する講演の後、荒木貞夫委員（小山市立間々田中学校長）が謝辞と閉会のあいさつを行い、大会を終了した。

（発表・講演要旨は次号）

関修委横嶋会長のあいさつ

風紋

河川法では渡川とされた四国の四万十川が、今夏正式に名称変更され、名実ともに清流の四万十川となった▼JR西日本でも、関西空港開港による九月のダイヤ改正から、山陰線嵯峨駅を嵯峨嵐山駅に、湖西線叡山駅を比叡山坂本駅に改称した▼駅の改称は旧国鉄時代からあり、阿蘇（旧名坊中）、中軽井沢（沓掛）、芦原温泉（金津）など、知名度の高い駅名に変更することによって、地域のPRに結びつけようとするものが多い。この十二月に、第三セクターとして中国山地を横断する智頭急行が発足するが、宮本武蔵駅という歴史上の人物のフルネームを用いた駅名まで登場する▼一方地名では、大阪は江戸時代には「大坂」だった。明治になって「坂が士に反る」ことを嫌って、大阪に変わった。建都千二百年でにぎわう京都も昔は平安京。京も都も「みやこ」を意味する。京都は二つの政庁ができた院政の時期からの呼称だ。明治以後、一時東の東京に対して西京と呼ばれたこともあった▼地名・駅名には地理的・歴史的な意味もある。信越線の柏原が黒姫に変わったとき、柏原と結びついた一茶の里のイメージが薄れるのは惜しいと言った人もある▼東北線・信越線等、線名は地方名や昔の国名を合わせて名付けているものが多い。嵯峨野線・琵琶湖線など、最近は愛称で呼ぶこともある。地名・駅名・線名などを調べるのも修学旅行の楽しみの一つだ。

（北）

――修学旅行生の作文――
〈心に残る修学旅行〉

志摩スペイン村

大阪市立北巽小学校
安田　裕樹

「うわ！スペインって美しい所やな。」

僕は、スペイン村に着いた時、まわりの建物を見てびっくりした。色、建て方が洋風で本当にスペインに来たようなふしぎな気分になった。

パスポートをもらって、まず行った所は、マヨール広場のコメドルというレストランだった。朝が早くてもうおなかがぺこぺこだったのと、おひつに入っていたほかほかのたき込みごはんがおいしいので、おかわりまでして食べた。グループのみんなもたくさん食べていた。

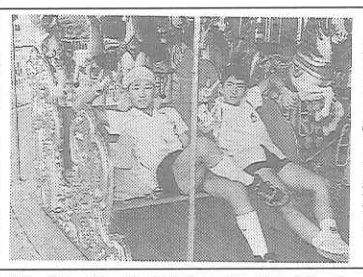
レストランを出て僕たちはグループでスペイン村をまわることになった。

「こんなにでかかったら全部まわれるかな。」と話しながら、まずフィエスタ広場に走って行った。ちょうどパレードが行われていた。スペインの村のようすやドンキホーテなどが登場してきた。

「アディオスアミーゴ（友よまた会いましょう）。」とスペインのお兄さんお姉さんたちが僕たちに笑顔いっぱいに呼びかけてくれた。

それから、僕たちは、一番こわそうなグランモンセラー、次にこわそうなスプラッシュモンセラーと次々とアトラクションに挑戦した。僕は本当はこわがりだが、友達といっしょなので「もう、どうにでもなれ」とかくごを決めた。ゆっくり、ゆっくりガタガタガタと上がり、「ギャアア、キャアア」と小さく、そして大きく落ちた。

アトラクションを思い切り楽しんで、白壁で、おうど色の屋根、窓の美しい花々、石だたみのサンタクルス通りを下りていくと、コロンブス広場に着いた。ここでは、難破船に乗りこんだ。難破船から小舟に脱出し冒険に出発した。古城から大砲が飛んできて、水しぶきが上がり、おじいさんが、「こっちへ来てはいけないよ。」とぶきみに教えてくれたが、船は流され、だんだん暗く寒くなり、気がついた時は海底に沈み、そして、ガタンと止まった時は、どきっとした。僕はこの冒険には感動した。


思いきり楽しむ筆者㊧

次は、ハビエル城に向かった。すると、コロシアムの方からカルメンが聞こえてきた。みんなでアイスクリームを買って食べながら闘牛の踊りや歌を楽しんだ。

最後にザビエルが生まれたというハビエル城を見学した。スペインの歴史や産業、文化がよく分かった。また、屋上から見えたスペイン村、海は、すばらしかった。

◇北巽小学校旅行行程◇
10／5　今里（近鉄）―鳥羽―志摩磯部―志摩スペイン村―鳥羽泊
10／6　鳥羽市内見学…鳥羽―今里

平成8年度の申込を集計
減員は最小限に
関東地区公立中修旅委

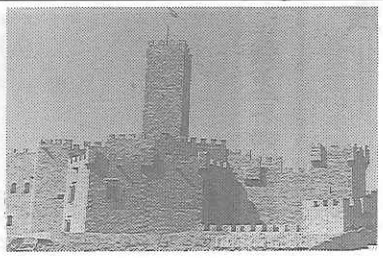
関東地区公立中学校修学旅行委員会は、九月六日及び十一月四日に研究協議会を開催し、平成八年度計画輸送の申込集計、JRとの意見交換等を行った。

平成八年度の申込みは八百四校、十四万九千人で、七年度に比べ校数は五校増加したが、人員は一千名減少、数年連続の減員は最小限にとどまった。

行先別では、関西方面が七百九十六校・十四万七千人となり、七年度より十四校・一千名増加したが、東北方面は八校・二千人となり、七年度に比べ半減した。

関西方面では東京発八時台のAコースに希望が集中し、一部の学校を他の時間帯に移行することとした。

JRとの意見交換では、旅行業者経由の団体旅行申込書の提出締切日繰り上げが問題の中心になったが、それぞれの立場を理解し、八年度分の「来年二月二十日締切」を確認した。


ハビエル城博物館の外観

志摩スペイン村テーマパーク「パルケエスパーニャ」は、本年四月、伊勢志摩国立公園の中心に位置する三重県志摩郡磯部町にオープンしました。おかげさまで開業以来多くのお客様にご来園いただいておりますが、とりわけ校外学習や修学旅行のご来園も予想を大きく上回っており、体験学習施設としてご理解いただけたかと意を強くしております。

「パルケエスパーニャ」は、スペインに出会えるテーマパークを意図して計画を進めてまいりました。見るスペイン、知るスペイン、感じるスペイン。パーク全体がスペイン文化との出会いの場です。教室では味わうことの出来ない感動や発見、さらには国際性豊かな学習の場としてご利用いただきたいと思います。

スペインと言えばまず思い浮かぶのは白壁の建物ですが、地域や時代によって異なり、各地に様々な風景が点在しております。それをシウダード（都市のスペイン）、ティエラ（大地のスペイン）、マール（海のスペイン）、フィエスタ（祝祭のスペイン）の四つのエリアに具体化しました。スペインをイメージする建物や街並みが続くなか、スペインを旅するような気分を味わっていただけます。

また、テーマ性のシンボルとしてハビエル城博物館をお勧めします。日西交流の先駆者の一人であるフランシスコ・ザビエルの生家・ハビエル城を再現し、スペインの歴史、風俗、文化をわかりやすく紹介しております。世界文化遺産の指定を受けたアルタミラ洞窟の壁画をはじめ歴史遺物の複製（レプリカ）をとおして歴史を紹介すると共に、エル・グレコ、ベラスケス、ゴヤに代表されるプラド美術館の名画の数々を鮮明な画面でご覧いただけるハイビジョンシアターや伝統工芸、民俗衣装の展示など、文化に触れることができます。スペインを身近に感じていただける教育的意義を持つ中心的な施設です。

アトラクションは、五つの大型アトラクションを含めて十六あり、「楽しさ」、「驚き」、「意外性」といった遊びを体験していただけます。

――修学旅行を考える――
見る・知る・感じるスペイン
パルケエスパーニャ

株式会社志摩スペイン村
販売促進部長　萬波　康正

さらに、パルケエスパーニャの楽しさは、スペインの心を具体化し、空間を演出する多彩なライブエンターテイメントによって大きく膨らみます。スペイン人を中心にパレードショー、ストリートパフォーマンスを、パーク全体をステージとして見せ場をつくります。気軽にパレードの輪の中に入って「アミーゴ（仲間）」、「グラシャス（ありがとう）」と声をかけ合って下さい。「パルケエスパーニャ」は、ふれあいを「もてなし」の大切な要素と考えております。

従来から伊勢志摩は、修学旅行の受入れに大きな実績を持っておりますが、一方ではマンネリ化が問われて久しく、地域全体の問題ともなっておりました。私たちも、今後の課題として「心に残る修学旅行」を提案させていただきたいと考えておりますので、新たに志摩スペイン村を学習の素材として加えていただき、一味違う体験学習をご検討賜りますようお願いします。

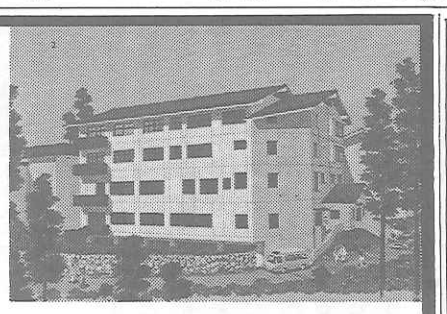
海外研修セミナー
主催　㈶全国修学旅行研究協会
日時　12月2日(金)14時
会場　千葉県教育会館
千葉市中央区中央四―一三―一〇
連絡先　㈶全修協本部☎03・5259・0631

第6回全国生涯学習フェスティバルが閉幕
次回は北海道で開催

富山県で開催された第六回全国生涯学習フェスティバルは、「高志のくにから12月2日　千葉で開催
内容　オーストラリア・ニュージーランド両国におけるホームステイの紹介、体験発表
ひろがる学び」をテーマに、地元富山県をはじめ全国各地から六十五万人が参加、十月十日閉幕した。次回は北海道で開催される予定。

第9回近畿地区中修学旅行研究大会　1月20日・長岡京
主催　近畿地区公立中学校修学旅行委員会　㈶全国修学旅行研究協会
後援　近畿各府県教育委員会ほか（予定）
日時　1月20日(金)13時
会場　長岡京市立中央公民館　京都府長岡京市
天神四―一―一　阪急京都線長岡天神駅西口
テーマ　視野を広げ、自ら学ぶ意欲を高め、心豊かな人間性を育成する修学旅行
発表①滋賀県大津市立南郷中学校草野圭夫教諭
②京都府亀岡市立南桑中学校小畠常夫教諭
連絡先㈶全修協大阪事務局☎06・202・6500

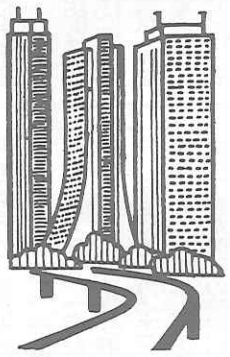
座禅体験で
〝心、リフレッシュ!!〟
清潔、安全、快適、
安心のお宿



本館	17室	194帖	120人
比叡	28室	260帖	200人
北嶺	15室	160帖	130人
計	60室	614帖	450人

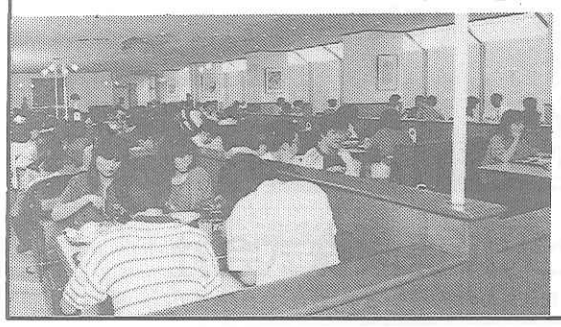
〈国際観光旅館〉
比叡山　延暦寺会館
TEL　0775―78―0047・0554
TELEX　5464―917
FAX　0775―79―5053

首都東京を見て、何かを！

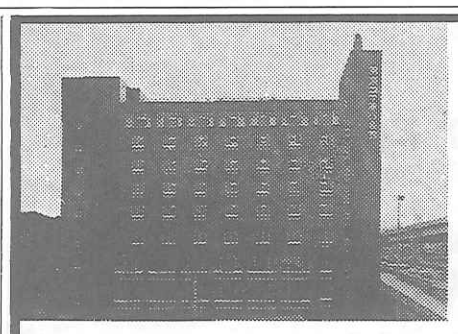


東京ドームもすぐ近く
お泊りは　都心の
経験豊かな
本郷の旅館へ
本郷旅館協同組合
〒113 東京都文京区本郷4―36―3 TEL 03―3813―9381

――修学旅行の楽しいお食事――
箱根彫刻の森美術館内
レストランコンポート



◇500名様迄、ご利用いただけます。
◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。
〒250-04
神奈川県足柄下郡箱根町二の平1121
☎0460(2)2221（予約センター）



東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。
東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。
ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL(03)3585―1046(代表)
東京　コマ旅行会館